

309 虚血性心疾患の運動負荷時左室拡張末期容積についての検討

久保田幸夫、久保田修平、飯塚利夫、鈴木 忠、
村田和彦（群馬大学第二内科）井上登美夫、佐々木康人
（群馬大学核医学）

虚血性心疾患(CAD群)22例、正常対照群(N群)10例にスワン・ガンツカテーテル挿入下に運動負荷心ブールシンチグラフィを施行し、運動負荷時の左室拡張末期容積(EDV)と肺動脈楔入圧(PAWP)との関係を検討した。なお、CAD群を運動負荷201TI心筋SPECT上一過性欠損を生じる群(A群)と生じない群(B群)に分けた。

A群では運動負荷時にEDVは増加したが、B群、N群ではEDVは減少した。安静時及び亜最大運動負荷時のPAWPは3群間に有意な差を認めなかった。

以上、CAD群における運動負荷時の左室反応異常は一過性虚血に起因し、PAWPに比しより鋭敏にEDVに反映される。

310 糖尿病患者の自律神経機能障害と左室充満機能との関係

谷 明博、石田良雄、両角隆一、山崎義光、北畠 顕
鎌田武信（大阪大学第一内科）、木村和文（同バイオメ
ディカル教育研究センター）、小塚隆弘（同中央放射線
部）、山本浩二（新千里病院内科）

我々は前回の本学会で、心拍（心電図 R-R間隔）の変動をフーリエ変換し、自律神経緊張度を評価する方法を報告した。今回、糖尿病患者（10例）に心ブールスキャン施行時、寒冷負荷試験（CP）を行い、交感神経機能を反映する低周波成分（LF）と左室充満機能との関連を検討した。CPでLFの増大した群（A群）と、減少した群（B群）に分けて、TPFRの変化をみると、A群： -36 ± 15 （SD）msec、B群： 8 ± 39 msec ($p < 0.05$)であり、交感神経刺激に心拍変動周期が反応する群（A群）では、本刺激により左室充満機能の改善が得られることが示唆された。

311 メトキサミン負荷における左室拡張能変化の検討

井上 亨、河北誠三郎、葛本尚慶、本村正一、
木之下正彦（滋賀医科大学第一内科）、増田一孝（同放射線部）、鈴木輝康（同放射線科）

正常例、肥大型心筋症、拡張型心筋症、冠動脈疾患等の疾患にメトキサミン負荷を行ない、負荷前後で心電図順逆同期心ブール法を施行、最大充満速度(PFR)、心房収縮能(AC/SV)等の左室拡張能の変化を検討した。また負荷前後でANPを採血し、ANP濃度と左室拡張能の関係も検討した。

メトキサミンによる後負荷増大時、血中ANP濃度の変化率とAC/SVの変化率の間に有意の逆相関を認め、左房収縮能は左室拡張末期圧の変化にともない変化する。